

## 羽間池（はざまいけ）

### 位置図



### 諸元

貯水量	245 千m <sup>3</sup>
満水面積	4.9 ha
受益面積	28.0 ha
堤高	8.8 m
堤長	504.0 m

まんのう町の羽間池は、ことでん琴平線の羽間駅の南側に位置し、西側の西山と東側の中津山の狭間に築かれたため池です。江戸時代の初期に、水源を中津山の東側の大福井出水に求め、山裾を巡る長さ 1,477m の用水路を設けて狭間に水を引き、池が築かれました。平成 15～16 年と平成 19 年に国営総合農地防災事業による改修工事が行われ、ため池の堤体に加えて、取水施設と洪水吐が整備され、現在の姿となっています。堤体は、琴平側を見渡せる本堤と丸亀側を見渡せる副堤があり、更に副堤からは、西山と中津山の間から「こんぴらさん」の鎮座する象頭山が水面上に顔をのぞかせる光景を見ることができます。

羽間池は、高松からの金毘羅街道が池を回るように通るので、「まわり池」とも呼ばれていたそうです。江戸時代中期には、庶民の間でも金毘羅参りが盛んに行われるようになりました。「こんぴらさん」へ参拝した人々は金毘羅からの帰り道に、土器川に架かる祓川橋を渡り、羽間池へと向かう坂道を登りながら、ふり返って街を望み、それぞれの思いを心に刻んだことでしょう。このゆるやかな坂路は、今に残念坂と呼ばれています。歌川広重が描いた「六十余州名所図会讃岐象頭山遠望<sup>ろくじゅうよしゅうめいしよ ざんぎ ぞうざんえんぼう</sup>」はこの峠道から象頭山を見た絵であるとされており、古くから魅力的な光景であったことがうかがえます。



本堤と象頭山



副堤を望む